

マリ共和国農村の女性と子供たちへの支援のための

カラ コンサート かけはし2016

歌 と お 話 し の 午 後



2016年2月28日(日曜日) 開場:13:30 開演:14:00

演奏：原田 康子、並木 健司

お話し「マリ人になり変わって」:マンスール ジャーニュ

お話し「みなさまの御支援によってこんなに変わりました」:村上 一枝

会 場: **十字屋ホール**(東京都中央区銀座3-6-4 03-3561-5250 *地下鉄銀座駅A12が便利)

アクセス: **銀座線・丸ノ内線・日比谷線 銀座駅 有楽町線** ともに徒歩2分

整理券: **3,500円**

お問合せ・チケットのお申込み: **カラ** (0422-29-7640 fax:0422-29-7688 e-mail: centre@ongcara.org)

原田 康子

宮崎県生まれ。ライブハウス「銀巴里」のオーディションに合格、第1回カンツォーネコンクール入賞。以後プロデビューし「銀巴里」を中心に日航ホテルミュージックサロン、NHK、労音等に出演。



イノホール、ヤマハホールでもリサイタルを行う。彼女の美しい歌声と聴く人を包み込むような心温まる歌は、多くのファンに安らぎと豊かさを与え人々を魅了している。

2002年からNPO法人カラのマリ共和国の農村に於いて弱い立場にいる女性と子供の教育と健康、そして自立を願ってチャリティーコンサートを行い、2016年で12年目となる。

マンスール ジャーニュ

所属:光陽物産株式会社 海外プロジェクト事業部 グローバル・プロジェクト・マネージャー

国籍: セネガル

語学: アラビア語・ウォルフ語・フランス語・英語・日本語

ヨルダンのカラク農業専門学校を首席で卒業後、同国ハシミテ大学で農業を専攻。1992年に来日。モリタニア大使の子息の家庭教師として従事。

稲川素子事務所に勤務の傍らトーク番組、講演会を各地で行い、アフリカという国を広める文化活動に力をいれる。

稲川素子事務所退職後、外国人専門芸能プロダクション「エコーズ」を立ち上げ、現在は上記会社に勤務。テレビ、ラジオのトーク番組出演やCMモデル、ファッションショーまで外国人プロフェッショナルとしてメディアでの活動を続けている。

1999年より国際井戸端会議団として全国各地にて国際問題、世界のマナー、エネルギー等のテーマで講演。

主な出演歴:「えいごりあん(NHK)」「アラビア語講座」「ここがヘンだよ日本人」「緊急! 世界サミット たけしJAPAN2」「笑っていいとも」「矢沢魂」「県庁の星(映画)」「金八先生」など。

TBSラジオ「久米宏 ラジオなんですけど」に出演。



並木 健司

ギタリスト・アレンジャー

東京生まれ、B型、乙女座。平岡精二クインテットを経て、内外アーティストのサポート・作曲・アレンジなどで活躍。ジャズ・ブルース・ロック・ラテン・クラシック等、ジャンルにとらわれない音楽を追及している。自己のトリオ[KNM](ケネム)、金益研二とのユニット[KB2]、Deux Marchésとのコラボ。



おもな共演アーティスト: ・アダモ(ベルギー生まれのシンガー・ソングライター) ・カラベリ(パリ生まれの作曲家、指揮者) ・ダニー・ブリアン(シンガー・ソングライター) ・リース・ルノー(歌手、パリ市議会議員) ・郡 愛子(メゾソプラノ歌手) ・今 陽子(歌手) 他

ギターを弾く為のアレンジ(編曲)集、「ソロギターベストヒット80s」、「ジャズギター・スタンダード」、「クラシック・イン・ジャズギター」等を発売中。ベースとDUOのCDアルバム「現音」がある。

村上一枝

北海道生まれ。CARA【特定非営利活動法人 カラ=西アフリカ農村自立協力会】代表。歯科医師。

1989年マリ共和国へボランティアとしてNPO法人「サヘルの森」の植林活動に1年間参加、その後マリ共和国農村に居住し「カラ=西アフリカ農村自立協力会」を設立。代表としてマリ共和国と日本事務局を往復し現在も継続して支援活動を行なっている。

2004年、文部科学省検定済教科書「UNICORN ENGLISH COURSE II」(高等学校外国語用 109文英堂 英II021)に村上の活動内容がテキストとして載用。

受賞歴:

ソロプチミスト日本財団「女性ボランティア賞」、三基商事(株)第4回「ミキ女性大賞」、読売新聞社主催 第29回「医療功労賞」、長岡市米百俵財団主催 第36回「米百俵賞」、大山健康財団主催 第6回「大山健康財団賞」、国際ソロプチミスト日本財団平成25年次「社会貢献賞」及び「千嘉代子賞」など。



NPO法人「カラ=西アフリカ農村自立協力会」について

1994年支援団体を組織して以来、最貧国と言われるマリ共和国の農村部において、住人が行なう「自立した生活への構築」への努力にたいして支援することを目的とし、事業を継続中。全ての事業は住民が主体であり、現在事業の対象は約90ヶ村、ほぼ6万人に渡っている。

支援事業内容は、村民・家族の健康調査からスタートし、実情を理解するところから始める。

井戸の掘削、教育の普及(学校・識字教室・識字教師育成)、野菜園造成、保存庫(穀物・タマネギ)建設、自然保護(森炭の森造成・森林パトロール隊)、女性適正技術指導・女性センター建設・女性貸付事業支援、保健環境改善事業(診療所建設と看護師、助産婦育成・女性保健普及員育成・エイズやエボラ出血熱・マラリアの予防学習・公衆衛生・病気予知知識の啓発・腸内寄生虫駆除)、村の経済状況向上のための公衆市場の建設と管理。その他自立に関わる事項への支援を行なっている。

団体受賞歴: ●倫理研修所主催 第6回「地球倫理推進賞」 ●社会貢献支援団主催 第36回「日本財団賞」

●毎日新聞社主催 第2回「毎日地球未来賞」 ●日本住宅協会主催 平成25年度「国際居住年記念賞」